

H28-Ⅲ 次の 2 問題（Ⅲ-1、Ⅲ-2）のうち、1 問題を選び解答せよ。

（解答設問番号を明記し、答案用紙 3 枚以内にまとめよ。）

H28-Ⅲ-1 健康寿命の延伸が課題となっている地方都市において、あなたが都市計画・まちづくりの担当責任者の立場で、関係部局と連携のもと立地適正化計画を作成し、都市のコンパクト化に取り組むことになった。以下の問いに答えよ。

- (1) 都市計画・まちづくりを担う立場において、健康寿命の延伸の視点から都市のコンパクト化に取り組むことの意義と、計画作成に当たり検討すべき項目を述べよ。
- (2) 上述の意義を踏まえて、公共交通の利便性の高い都市の中心部における、他の関係部局と連携した取組のうち、あなたが特に重要と考える取組について複数提案せよ。
- (3) あなたが提案する取組の実施に伴い、都市の中心部から離れた居住誘導区域内の居住者への対応として、考慮すべき事項と対応方策について述べよ。

立地適正化計画を作成する担当責任者としての考えを以下に述べる。
1. 都市のコンパクト化に取り組む意義と検討すべき事項
(1) 都市のコンパクト化に取り組む意義
① 都市のコンパクト化の必要性
高度経済成長期以降、日本の都市は、市街地を郊外へ向けて拡大してきた。その後、人口減少、少子・高齢化の進展により、市街地が低密度化している。市街地の低密度化により公共交通機関の利用者が減少し、バス・鉄道等の公共交通機関は減便・廃止等の事態が起きている。
低密度化した市街地は、社会インフラのコストも増大することから、都市のコンパクト化が必要である。
② 健康寿命の視点からの意義
医療施設、福祉施設が分散している市街地では、適切なサービスが受けられない。また公共交通が整っていない市街地では、交通弱者である高齢者等が健康的な暮らしをすることが出来ない。
そのため、都市のコンパクト化と交通対策に取り組む必要がある。
(2) 検討すべき項目
① 現況調査・現況把握
当該市の地域別に人口、人口密度、各施設の分布（医療、福祉、教育、公共施設、商業、生活利便等）、

各施設の利用状況、交通関連（道路の交通量、鉄道駅の利用者数）、土地利用（農地、森林、宅地等）等を調査し、市街地の状況を把握する。

②立地適正化に向けた方針の検討  
上記①の現況調査・把握を踏まえて、立地適正化に向けた方針（ターゲット、シナリオ）を検討する。  
都市機能の誘導に際しては、どのような都市機能を核に中心拠点を形成するのかを検討する。

③歩いて暮らせるまちづくり  
都市機能を集積し、歩いて暮らせるまちづくりを検討する。高齢者も含めた住民が交通機関に依存することなく、健康的に歩ける歩行者動線・バリアフリー動線の確保を検討する。

## 2. 他の関係部局と連携し特に重要と考える取組

立地適正化計画の作成に際しては、都市機能誘導区域を設定するが、その核となる都市機能を何にするのか、どのように集積させるのかが重要と考える。

案として考える取組を以下に示す。

A) 大規模な商業施設（商業振興関連部局）  
大規模な商業施設を核として集積させる。大規模な商業施設の建築内部、あるいは駐車場や周辺街区に集積させる。

B) 医療・福祉施設（福祉関連部局）  
病院や福祉施設を核として集積させる。

C) 公共施設（関係施設の関連部局）

